

ロールモデル インタビュー ～徳島で生きる人たち～

徳島市まちづくり協働プラザ

清水 杏咲 Shimizu Anzu



① 現在のお仕事について

大学生の頃、友人に誘われて参加した地域活動がきっかけで、現在の仕事に就きました。地域活動の楽しさに魅了され、自然とこの道に進むことになったのです。現在は、かつての私のように「何かしたいけれど、何をすればいいかわからない」と悩む学生たちが、地域活動へ最初の一步を踏み出すきっかけづくりをしています。また、NPO支援施設として、徳島市内で活動する団体に対し、主に広報面でのサポートも行っています。

② 今のお仕事のやりがいについて

この仕事のやりがいは、一見「何もない」「何もできない」と思われがちな徳島というフィールドで、人々がワクワクできる場を創造できることです。その中で、誰かの役に立っていると感じられることが、私にとって大きな喜びとなっています。

③ 今のお仕事において大変なこと

自分の力不足によってサポートできる範囲が限られてしまうことに、もどかしさを感じることがあります。もっと多くの支援を届けたいという気持ちが強い分、課題として感じています。

④ 今、清水さんがチャレンジしていること・したいこと

現在は、グラフィックレコーディングという手法に挑戦しています。これは、講演や研修、会議、ワークショップでの話をリアルタイムで視覚化する仕事です。言葉だけでなく、絵や図を交えることで、より多くの人に情報が伝わりやすくなるよう取り組んでいます。

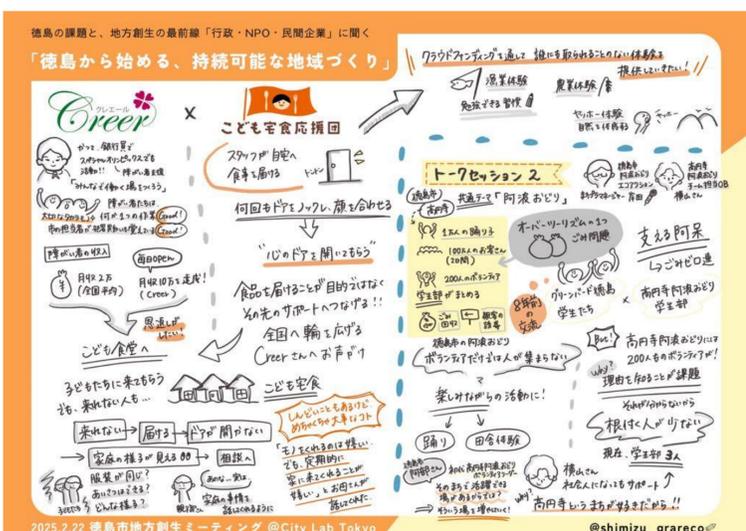
⑤ みなさんへのメッセージ

「男女共同参画社会」と聞くと、少し堅苦しいイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、私はこの言葉を「誰もが自分らしく輝ける社会」だと捉えています。性別や年齢、経験に関わらず、それぞれの個性や能力が尊重され、誰もが「やってみよう」と思ったことに挑戦できる環境。それが、私がこの仕事を通して実現したい社会です。

私自身、地域活動との出会いから、今の仕事、そしてグラフィックレコーディングという新たな挑戦へと繋がってきました。どれも最初から明確な目標があったわけではなく、目の前の「楽しい」「誰かの役に立ちたい」という気持ちから始まったものです。

皆さんも、もし少しでも興味のあることや、「こうなったらいいな」と思うことがあれば、ぜひ小さな一步を踏み出してみてください。その一步が、自分自身の可能性を広げ、そしてより良い社会へと繋がるかもしれません。

男女共同参画社会の実現は、一人ひとりの意識と行動から生まれます。今回のパネル展が、皆さんが自分らしく、そして社会との関わりの中で新たな発見をするきっかけとなれば幸いです。



●徳島市のまちづくりについてのイベントを東京で開催した際に、1日グラフィックレコーディングしました。



●我が家の猫ちゃんず（保護猫です）